

静岡市長
田辺信宏様

折戸湾の利用・再生に関する要望について



平成27年1月15日
魅力ある清水を創る会

静岡市長 田辺信宏様

折戸湾の利用・再生に関する要望について

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

社会環境や経済環境が大きく変動しつつある現在、静岡市は、政令指定都市として、これまで以上に地域の独自性を活かし個性的で魅力あふれる地域づくりを推進しておられますことに、深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第であります。

清水地区におけるこうした地域づくりにおいて、世界遺産の構成資産である三保松原を持ち、富士山の眺望に優れた清水港周辺の環境整備が特に重要であります。なかでも「折戸湾」は、地域の将来を左右するポテンシャルを有するものであります。

静岡市が策定した「清水港ビジョン」において折戸湾周辺地区について、「人口海浜ゾーン」「プレジャーボート収容施設ゾーン」「畜養・養殖ゾーン」「展示・交流ゾーン」「海洋関連研究ゾーン」とする施設配置方針を示しておられます。

折戸湾は、安倍川からもたらされる砂礫により形成された砂嘴で囲まれた半閉鎖性海域であり、かつては、魚や真珠の養殖海面となっていたほどの良好な水質に恵まれ、子供達が水遊びを楽しむ場でもありました。「清水港ビジョン」はこうした折戸湾の元の姿を踏まえたものと大変心強く受け止め、期待しているものであります。

しかしながら、水面を県営貯木場に提供して地域の経済振興に大きく貢献した折戸湾には、近年の環境重視に伴う原産国の原木丸太の輸出規制や、木材関連産業の構造の変化により、水面貯木の役割を終えた現在、不要となった県営貯木場時代の「木材係留用コンクリート貯木杭」が多数残されており、湾底には水質の悪化等をきたす貯留木材の木皮や木屑が堆積しており、地域住民は、景観を含む地域の良好な環境のために、この「木材係留用コンクリート貯木杭」の撤去と湾底堆積物の処理を強く望むものであります。同時に、これらの処理は、折戸湾周辺の新たな利用計画と合致してこそ、大きな効果を上げることができるものと考えております。

つきましては、静岡県に対し、静岡市と地域住民・経済界が連携して折戸湾周辺地区の具体的な利活用計画の策定に、一日も早く着手するよう呼び掛けられることを強く要望します。

平成27年1月15日

魅力ある清水を創る会

会長 望月 薫